平成２５年６月１日発行

# かまにし

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

第４８号

## わがまちの顔

### 「ひと裁ち折り」考案者　山本厚生さん

「折」って「切」って「開いて」びっくり。一回だけ直線でスパッと切ることで現われる動植物、アルファベット二十六文字、数字のカタチ。

東矢口一丁目にお住まいの建築設計士山本厚生さん（昭和十三年生れ）が考案した「ひと裁ち折り」です。

きっかけは二十年前。新聞に入ってくる沢山のチラシを捨てるのはしのびなく直線に何度もグチャグチャに折って一回だけ切ってみる。何が出来るかな？切ったあとの意外性のカタチが楽しみになり、これは何か「法則がある。」と考えるようになり、以来はまってしまったとのことです。法則が手と頭に入ればあとはらくです。文字のデザインの統一感を出すため、また誰にでもわかるように、ギリギリまで追求したそうです。ハートも前は四回折っていましたが、今は三回折って完成させ進化しています。

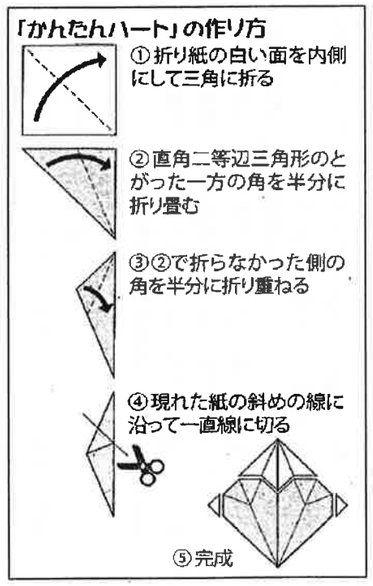
アルファベット二十五文字はスムーズに出来上りましたが、いつもご一緒にいる厚生さんの「ダメ押し係」であるデザイナーのヒカル夫人からはSに関しては四年もオーケーが出ませんでした。

本も十年前から出版しています。

新聞に載り、小学校の先生の目に止りました。授業の最初に子供たちにやって見せると「わあ！」と言う感動の声とともに、興味を持ってくれるそうです。近年はマスコミでも取り上げられ、愛好者は海外まで広がっています。数学教育との関係、造型やものづくりの基礎能力向上、子供たちの想像する力の発達促進やお年寄りの機能回復、皆で一緒にやることでのコミュニケーション作りに活かされています。世界中の皆さんに自由に使ってもらうため商標登録をしないで「ハートは世界に通じる」と平和を願い、紙とハサミを常にもち歩いているそうです。

出版本　ひと裁ち折りの魅力
　　ひと裁ち折りと
　　山本厚生の世界　他

（取材　佐藤、近藤委員）






## かまにしコンサート

平成二十五年三月九日、大田区民センター音楽ホールにて「第五回かまにしコンサート」が開催された。主催は道塚自治会。後援は蒲田西地区自治会連合会、大田区社会福祉協議会である。

可愛らしい道塚幼稚園児の鼓笛隊演奏で幕が上がり、練習の成果を遺憾なく発揮した園児たちの熱演ぶりに、会場を埋め尽くした聴衆から歓声と惜しみない拍手が送られた。

今回の出演団体と演目の一部を紹介する。

**道塚幼稚園**『ビューティフルサンデー』他一曲演奏。**みちづかコーラス**『早春賦』他二曲合唱。**おなづか小学校ヴァイオリンクラブ**『きらきらぼし』他一曲演奏と同**校早起き合唱クラブ**『気球にのってどこまでも』他二曲合唱。**プレシャスプレイズ**『I'm still standing』他二曲合唱。**おなづか小学校PTAコーラス**『さかさまの空』他三曲合唱。**御園中学校吹奏楽部**『チェリー』他四曲演奏で第一部が終了。

休憩時間を利用して、中学生による東日本大震災義援金の募集があり、第二部が開幕。**南蒲幼稚園**『天空の城ラピュタ』演奏の他合唱二曲が会場を沸かせた。**多摩川諏訪囃子**『ひとっぱやし』演奏。**花みずき**『ふるさとの四季』他二曲合唱。**ジェネシス　ユース　コール**『花』他四曲合唱。**ウリパラム／サムルノリグループ**『プンムル』他二曲演奏。**マリンスノー**『On the sunny side of the street』他三曲をボーカルを交えて演奏。フィナーレに出演者と観客全員で復興ソング『花は咲く』を合唱し、会場を一つに盛り上げて閉会した。

平成二十一年三月二十五日の「第一回かまにしコンサート」は、**みちづかコーラス、マリンスノー、おなづか小学校チャンゴスターズとウリパラム**と、わずか三団体でのスタートであった。企画から運営全てをボランティアが担い、幼児から高齢者まで広い年齢層に参加を呼びかけ、様々なジャンルの音楽を通じて地域の交流を目的とし、毎年成長を遂げてきた。第五回にあたる今回は、十二団体の参加協力を得ての公演となった。

**みちづかコーラス**のメンバーとして第一回の公演から参加してきた実行委員長を務める加藤公子氏は、「これからも地域住民による手作りのコンサートとして、継続と発展に努力していきたい。」と語ってくれた。

（取材　都築委員）

全員合唱 "花は咲く"

## 編集後記

本紙第四十七号わがまちの顔でご紹介した記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。二段目にご紹介した短歌で、正しくは左記となります。

眼鏡拭く度に思ひぬ憂きことも
かくはすがしく拭ひたきもの

今後は一層注意を払い、地域情報紙作りに励んでまいります。これからも「かまにし17」をどうぞご愛読ください。

**蒲田西特別出張所管内**

| | | |
|---|---|---|
| 人口 | 男 | 31，514人 |
| | 女 | 29，140人 |
| | 計 | 60，654人 |
| 世帯 | | 33，411世帯 |

平成25年5月1日現在

情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などを事務局までお寄せください。
事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七―十二―七
（三七三二）四七八五

# 蒲田撮影所と蒲田の映画館 今昔

大正九年は、日本の映画界にとってまことに輝かしい夜明けであった。

それまで日本の演劇界に君臨していた松竹が、新しい映画に着目し、社長大谷竹次郎は大正九年二月十七日、最初の映画製作会議を開き、翌月、松居松葉、田口桜村などがアメリカ映画界見学のため出発した。

それまでの映画界は日活（日本活動写真㈱）と天活（天然色活動写真㈱）に二分されていたが、両社は旧態依然たる活動写真的のものであったので松竹は欧米で見学した映画劇の製作に重点を置き日本映画の向上に貢献した。

先ず撮影所設立のための土地の選定であるが、最初は井の頭、鶴見、大宮などが候補にのぼったが、いずれも最終的段階に到って交渉決裂し、結局蒲田が有力視されることになった。

当時、東京府荏原郡蒲田村字新宿に第一次世界大戦で化学薬品の製造をしていた中村化学研究所（現在の本蒲田公園付近）があった。

撮影所はこの中村化学研究所の敷地九千坪の買入れに成功し、工事に着手し大正九年六月に「松竹キネマ蒲田撮影所」が誕生した。

この頃の蒲田は梨畑と桃畑が並び木造建てのスタジオが寒々として建てられていた。当時は土地も坪五十銭そこそこで買える時代であった。

古びた煉瓦造りの建物を事務所に、ところどころの空地に天幕張りのオープンステージが出来、つづいて木造のガラス張りの大ステージが建設された。

輝かしい製作への第一歩を踏み出した蒲田撮影所の記念すべき第一回作品はヘンリー小谷監督撮影、川田芳子、中村鶴蔵主演の時代劇「島の女」三巻で、大正九年十一月一日東京歌舞伎座において封切られた。

大正十年、ようやく蒲田の仕事が軌道に乗ってきたこの年に、「虞美人草」で数え年十九歳の栗島すみ子がデビューした。虞美人と妻愛子の二役で純情可憐な容姿が大きな話題を呼び、栗島すみ子時代をつくり、蒲田といえば栗島、すみ子といえば蒲田と蒲田映画の代名詞とまでなった。

かくて蒲田の初期は女優中心主義の作品が映画界を席巻した。すみ子につづいて五月信子、川田芳子などが人気を集め、大正十四年田中絹代が京都下加茂撮影所から蒲田に移った。田中絹代は栗島につづく第一線のスターとして華やかに売り出していった。

昭和十年には、六年に東京飛行場が建設され飛行機が往来し、付近の新潟鉄工所、高砂香料、東洋カーボンなどの騒音がトーキー制作上の支障をきたすようになってきた。

かねて撮影所の移転のため、より広い土地、海辺や山地を近くに持つ土地を物色中であったが大船駅近くに九万坪の土地を入手に成功したのでその準備に入ることになった。

昭和十一年一月十五日、撮影所が蒲田と決別する日がきた。この日は撮影所も開放され所内には仮設舞台がつくられ、スターの歌や踊りなどが公開された。また、おでん、お好焼などの出店もあってファンにとっては楽しいような、寂しいような蒲田最後の日であった。

## 大正から昭和にかけて 開館した映画館

蒲田常設館

蒲田で最初の映画館・大正十一年七月十四日JR線路脇に開館。昭和二十年三月東京大空襲で焼失、戦後同じ場所に蒲田パレス座が建設される。

蒲田電気館

日活映画専門館としてのんべ横丁に大正十三年七月十三日開館。戦後閉館。

蒲田キネマ

子供向けの映画館・大正十三年五月十六日現キネマ通りに開館（この映画館からキネマ通りの名が付く）。昭和二十年四月東京大空襲で焼失。

蒲田富士館

映画とレヴューの殿堂といわれ昭和五年九月十二日開館。昭和二十年四月十五日の空襲で焼失（戦後開館した富士館とは無関係）。

## 戦後の蒲田西地区に 開館した映画館

カマタ映画座（蒲田ヒカリ座）

小林町（蓮沼駅付近）に水越梅太郎氏の経営で昭和二十年十二月開館。定員三五〇名。平屋建、松竹映画特約店にて随時歌謡ショー、ストリップショーを併演。一時美須興業の直営に移り昭和二十二年六月十七日より蒲田松竹映画劇場と改称。昭和二十五年より再び水越氏の経営となり、蒲田ヒカリ座と改称各社三本立上映になる。

蒲田東宝劇場（ムービー蒲田）

城南興業の経営で御園町一丁目（現西蒲田七丁目）に昭和二十二年六月開館。定員二三八名。昭和二十七年五月よりムービー蒲田と改称、本間梅太郎氏の経営で東宝映画を上映、昭和三十二年に閉館。



蒲田大映劇場（蒲田名画座）

蒲田東宝劇場に隣接して本間梅太郎氏の経営で昭和二十二年六月開館。定員二四三名。昭和二十七年五月より蒲田名画座と改称し大映、東宝映画を上映、昭和三十七年閉館となり跡に東宝敷地を含めてマーケットになる。

蒲田パレス座

女塚町（現西蒲田五丁目）に三葉興業の直営で昭和二十五年二月十五日開館。定員三九六名、洋画系で開館したが、後に日活封切場。昭和四十一年八月十八日より新装し洋画三本立になり用地買収により閉館。

テアトル蒲田

西口商店街の繁栄の策として商店街一五〇軒が出資、蒲田西口連合映画㈱直営で昭和二十五年七月十四日開館。定員三〇四名、東宝映画封切館であった。昭和三十年十二月より洋画系となり、昭和三十一年よりテアトル東映となり東映特選番組を上映、昭和三十九年六月「蒲田文化会館」建設に伴い同館四階に移りテアトル蒲田として現在も営業中。

蒲田帝都座

大城通り入口付近に三葉興業直営で昭和三十年二月八日開館。定員三四〇名。洋画二本立のちに東映系となり昭和四十四年に閉館。

蒲田南星座

蓮沼駅前に南星興業直営で昭和三十年九月二十日開館。定員三三六名。洋画特選番組で営業。閉館近くは成人映画を上映。昭和四十年代閉館。

蒲田宝塚劇場（カマタ宝塚）

西口通りのテアトル蒲田に隣接して杉山権三により昭和三十年十二月一日開館、東宝映画封切館となる。昭和三十九年六月「蒲田文化会館」建設に伴い同館四階に移りカマタ宝塚として現在も営業中。

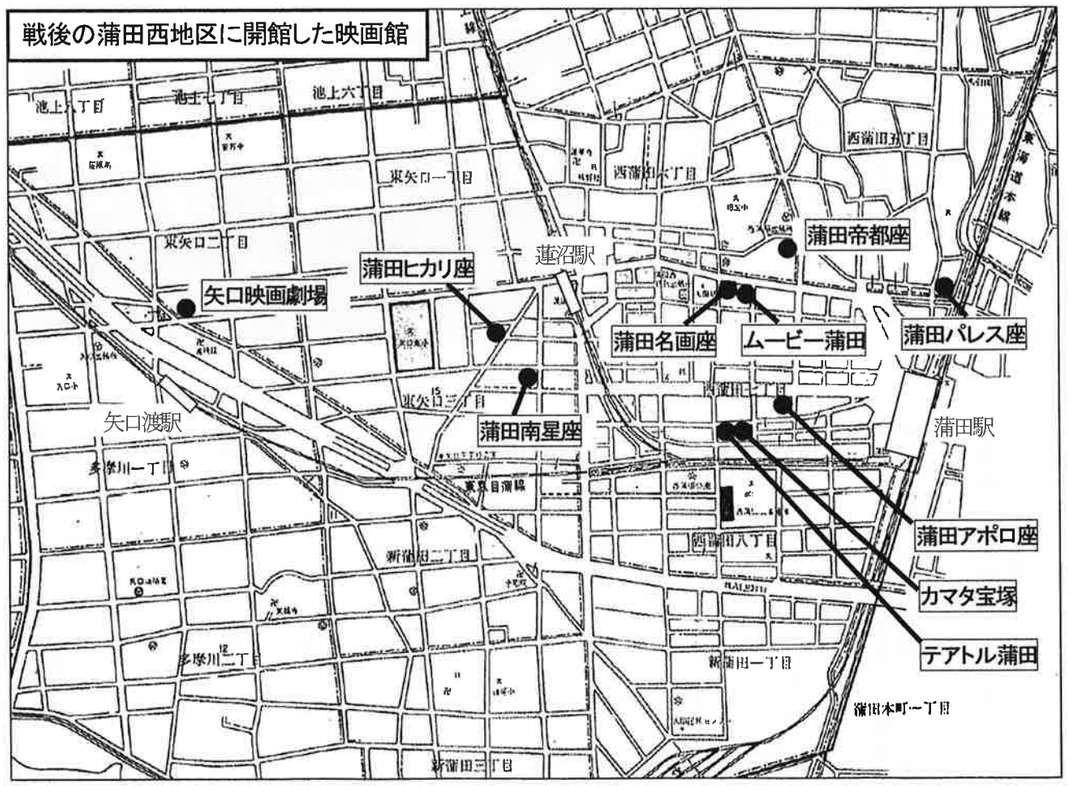
蒲田アポロ座

西口通りに遠藤直司の経営で昭和三十一年七月二十八日洋画特選館として開館。昭和四十年代閉館。

矢口映画劇場

矢口渡駅近くに佐藤精之助が昭和三十二年に開館。昭和四十一年廃館。

以上の通り戦後の蒲田西地区に開館した映画館は十軒あり三十年代は文字通り映画の町、蒲田と言われて、蒲田で生まれ育った年配者の方は、小学校の課外授業で映画鑑賞が盛んに行われていた事を思い出されたことと思います。

現在営業中の映画館はサンライズカマタアーケード街の中にテアトル蒲田とカマタ宝塚の二軒だけになってしまった事は残念というほかありません。

（取材　柳通、石渡、瀬川委員）